



掛川に伝わる昔話を上演する高校生ら。いずれも掛川市南西郷の松ヶ岡で

文化芸大生と掛川西高生披露

掛川市南西郷にある市指定文化財の松ヶ岡（旧山崎家住宅）で、静岡文化芸術大（浜松市中央区）の学生と掛川西高校演劇部の生徒が、掛川の昔話を演劇で披露し、親子連れらが楽しんだ。

松ヶ岡はかつての商家で、市が修復を進めている。昔話の会は、市と連携して松ヶ岡の教育的活用や魅力向上を研究する同大デザイン学部の新妻淳子准教授が、地域連携演習の一環として学生らに呼びかけ、13日に開催。1年生3人と、高校生6人が参加した。

市内に伝わる三つの民話を、修復が済んだ主屋の土間などで披露。小夜の中山に伝わる「夜泣き石」では、峠越

えの際に盗賊に殺された母親の魂が、おなかの傷口から生まれた赤ん坊のために石に移り移って泣き、助かった息子が後に盗賊に敵討ちを果たすまでを熱演。赤ん坊を助けたお坊さんがお乳の代わりに与えた水あめが由来の「子育て飴」を、鑑賞した子ども15人と保護者9人に配った。

子どもたちは学生の案内で、明治天皇も宿泊した奥座敷など主屋内を見学。花いちもんめなど、昔の遊びも体験した。同大文化政策学部1年の大内美空さん（19）は「歴史的建造物の畳や縁側、庭園などの魅力を感じながら、地元で古くから伝わる話に触れてもらうことができ良かった」と話した。

（築山栄太郎）



花いちもんめを体験する参加者

旧商家で昔話演劇